



各種加工から生産
一貫生産が強い

終戦の年に創業、鈴の製造から釣具メーカーへ

大島製作所

今紹介するのは株式会社大島製作所(大阪府東大阪市本社・大島正旭社長)だ。チヌの落とし込み用リール、オモリ各種、船用品、ソフトルアーなど約2500種類、釣具を扱う老舗メーカーで、フィッシングショーOSAKAにも毎年出展し、人気のメーカーとなっている。創業当初は釣具メーカーではなく「鈴」を作る会社だった。どういった経緯を辿り釣具メーカーとして成長してきたのか。また今後の方向性について大島正旭社長に伺った。



写真右が「玉来鈴」。左が「福鈴」

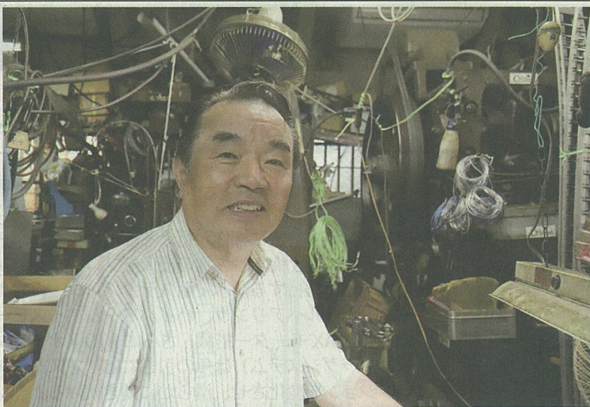
大島製作所の創業は1945年(昭和20年)経営する工場に勤務した太平洋戦争終戦の年だ。大島正旭社長の実父である大島高氏が創業した。正旭社長が誕生した。

大島高氏は戦前、兄弟経営する工場に勤務し、湯たんぽやバケツを作っていた。兄弟はそれぞれ、自働車や、自働車の方キ、兵隊を来たし、終戦を迎え、大島高氏は大阪に帰ってくる事が出来た。

たが、工場を経営していた兄は帰ってこなかった。兄は終戦後に動員された。その後、兄は帰ってこなかった。兄は終戦後に動員された。その後、兄は帰ってこなかった。

最終後、大島高氏は兄の工場から独立して東大阪市三ツ瀬で大島製作所を設立した。最初に作ったのは「福鈴」だ。「福鈴」は神社(お守りなど)、装身具(アケセサリ)はもちろんだ。猫の首輪や、自転車の方キ、抜けき、キーホルダーなつまり、狭い工場でも鈴の製造が出来、製造が出来る。

「玉来鈴」と命名した。福鈴も玉来鈴も良く売れた。神社(お守りなど)、装身具(アケセサリ)はもちろんだ。猫の首輪や、自転車の方キ、抜けき、キーホルダーなつまり、狭い工場でも鈴の製造が出来、製造が出来る。



写真上) 大島正旭社長。大島製作所設立の年に誕生、今年75歳。今でも現場で作業をする事もあつた。写真左) フィッシングショーで賑わう同社のブース

「写真上) 大島正旭社長。大島製作所設立の年に誕生、今年75歳。今でも現場で作業をする事もあつた。写真左) フィッシングショーで賑わう同社のブース」

初心者講習会で釣り人拡大に貢献
ク釣り員、中央漁具、浜田商會等が主催で、特に大阪漁具には大きな仕事を紹介して貰った。大変世話になり感謝して今でも取り合っている。昔に鈴を取っていた開屋釣りが盛んになるにつれ、巡回していた卸業者や釣具店からも大島製作所に「釣具でどういったものを作ったか」という問い合わせが多くなった。そして、実際に作ってヒット作となったのがクリップ鈴だ。竿先にクリップ鈴を付けることで、定置網品となっていた。今も販売させて欲しい」と依頼



毎年人気の初心者講習会。釣りの経験がない人でも安心して参加できるイベントだ

その後、レジャーブームの到来、釣りもブームとなり、釣具関係者との取引も年々増加、懇意となる業者も増えていった。大阪漁具、大島製作所が2代目社長に就任、組織変更も行った。株式会社大島製作所となった。

この頃に、オリビッツというメーカーから、ク釣り用のリールのOEM先を探していた。大島製作所は金型製造から製品まで一貫して作るため、金型代も安く、さらに「スプールにカーボンを使う」という点で、現行でも改良を加えて、現在も多くの釣り人が愛用している。オリビッツのク釣り用リールは、大島製作所の自社商品として少しずつ改良を加えて、現在も多くの釣り人が愛用している。

鈴が釣具として、そして次で、釣具メーカーとして努力を怠らない。大島製作所の今後の目標は、釣具メーカーとして、そして次で、釣具メーカーとして努力を怠らない。

「玉来鈴」は福鈴より生地の厚い丸型の鈴の新商品だ。名称も福鈴のように縁起の良い名前として「玉来鈴」と命名した。

「玉来鈴」は福鈴より生地の厚い丸型の鈴の新商品だ。名称も福鈴のように縁起の良い名前として「玉来鈴」と命名した。

「玉来鈴」は福鈴より生地の厚い丸型の鈴の新商品だ。名称も福鈴のように縁起の良い名前として「玉来鈴」と命名した。



鳴門駒(ヨコ型)。スプールにカーボンが使用されている。9色を展開



新製品の「舞匠 METAL80 III」。アルミ合金製で超軽量、超回転を誇る

「我々はモノ作りのメーカーですから、やはり新しい知識を得ながら、様々な技術を習得していく事が大事です。釣具業界に限らず、新しいチャレンジをして、経営を安定させ、出来る事を少しずつでも増やしていく事が大切だと思っています。今も企画、樹脂、ゴムの金型製造、あらゆる加工から製造までの一貫生産が出来ることが強みですが、更に伸ばしていきたいと思っています。」

流
る
放流
たも
め
回
「フィッシング遊」
「スティホーム」
「企画」
「世界で盛況を奮つても関わらず、年々講習会

ロジスポなら、ロッドの運送費を安くする方法があります。 LOGISPO